



絵本の読み聞かせプログラムによる地域の教育支援とネットワーク構築モデルに関する研究



2012/10/2

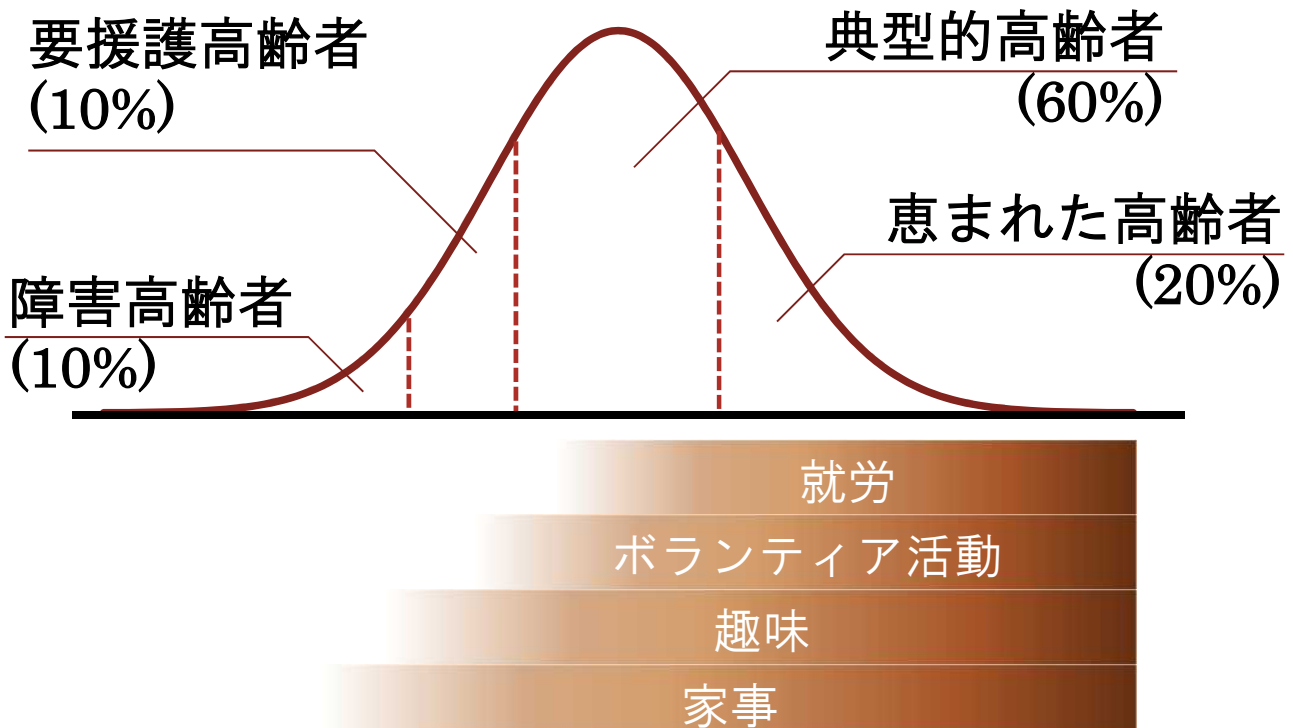
生涯学習政策フォーラム



京都健康長寿医療センター研究所・社会参加と地域保健研究チーム

藤原佳典

健康度に応じた社会参加の姿



背景

1. 高齢者を地域の教育力の一翼とする意義の認識不足
2. 高齢者を実践現場で活用するために必要な知識と理解不足
3. 教育だけの枠組にとらわれた学校と地域の連携の現状
4. 都市近郊地域において進む世代間格差の意識
5. 人材としての高齢者の活用不足

研究目的と内容

研究目的

生涯学習と保健福祉を融合した絵本の読み聞かせボランティア養成プログラムを通して地域高齢者による学校や教育支援への参加・継続を促進する地域モデルを提示する。



高齢者ボランティアが地域で主体的かつ継続的に活動する要件

- 1)活動施設の存在(前提)
- 2)健康不安(?)
- 3)コーディネーターの存在(?)
- 4)活動施設職員の高齢者に対する理解と受入れ方法の確立(?)

主な研究内容

A.シニアの読み聞かせ講座の実施とその効果の検証

B.①既存の読み聞かせボランティアを対象にした調査

②既存の読み聞かせボランティア活動施設の職員や地域コーディネーターなどを対象にした調査

絵本は生涯学習の宝庫・・・安・近・深



➤ 主人公が高齢者多い

➤ メッセージ性

➤ 多種多様、無尽蔵

➤ 近くの図書館で

➤ 借りれば無料

練習

記憶力

言語能力

発声練習



選書

生涯学習

知的活動

感性をみかく



実演

緊張感

子供へのメッセージ



ボランティアの1週間

反省会

生涯学習

反省から学ぶ

仲間づくり



A. シニアの絵本の読み聞かせ講座の実施とその効果

対 象: 65歳以上の男女

講座内容: 全10回の読み聞かせ講座

時 期: ①平成23年9月9日～11月18日
(前期グループ)
②平成23年12月2日～平成24年2月24日
(後期グループ)

- 方 法: ①公募した24名を無作為割付にて2群に分け、講座を実施。
②認知・身体機能・心理社会的項目を講座開始前、前期講座後、後期講座実施後に評価した。
③インストラクター1人+地元コーディネーター1人で運営。
④自主グループ化し、ボランティアへ



講座内容

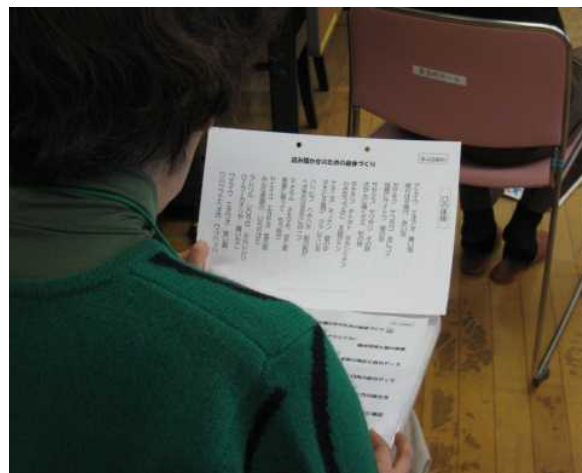
回	内 容	
第1回	今読まれている絵本について	現在、使用中の絵本の紹介 (小学校低学年及び、中学校)
第2回	忘れられない絵本	子どもの頃、又は育児中の記憶の掘り起こし。 伝えるという技術について
第3回	思い出の絵本を読む	今の自分の技術を知る・読み聞かせの注意点・ 自己チェック、自己採点
第4回	読み聞かせに必要な体作り	柔軟体操から呼吸法、発声と滑舌
第5回	読み聞かせの練習その1	7つのポイントのチェック、読解と表現
第6回	読み聞かせの練習その2	文章理解と感情移入 個人発表リハーサル
第7回	読み聞かせ発表会(個人)	個人発表
第8回	読み聞かせ発表会の振り返り/グループ発表会の準備	個人発表の自己チェックと採点「30分パックのパフォーマンスを作る」
第9回	グループ発表会の練習	読みの練習と合わせ・構成、具体的準備
第10回	グループ発表会/修了式	発表会

体づくり・表現・読解



9

10分間脳トレ・タイム



認知機能向上のため、記憶の仕組みについての講話や伝言ゲーム、短文・歌の記憶。

10

個人発表の様子



**絵本の選書・読みこみ練習後の個人発表。
⇒講師がチェック項目について講評。**

11

グループ発表の様子



**2つのグループに分かれて
30分のプログラムを作成。
テーマを設定し、実際に子ども
の前で読み聞かせをするという
想定で実施。**



12

読み聞かせの実践



保育園

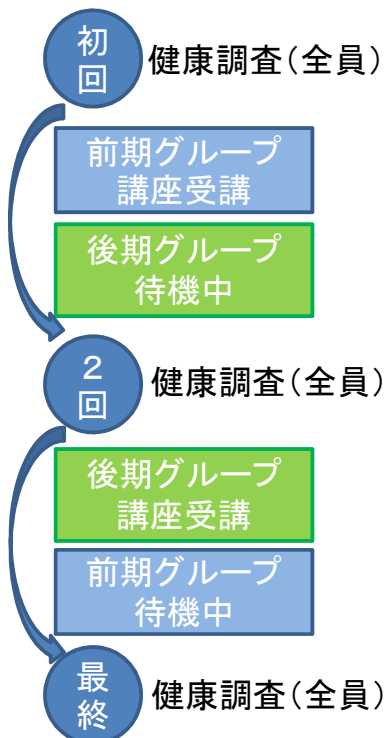


団地の集会所



講座終了後、⇒地域での実践を体験⇒自主化へのステップをはかる。

健康調査(効果評価と健康相談)



血圧の測定と医学・生活問診



握力測定



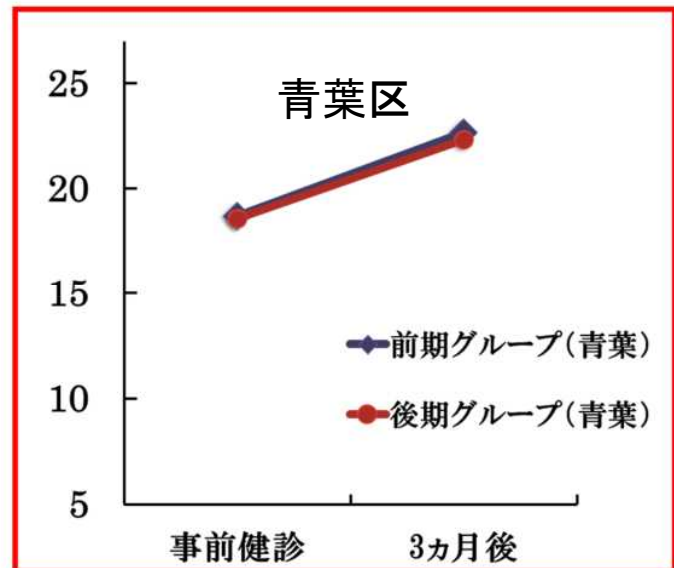
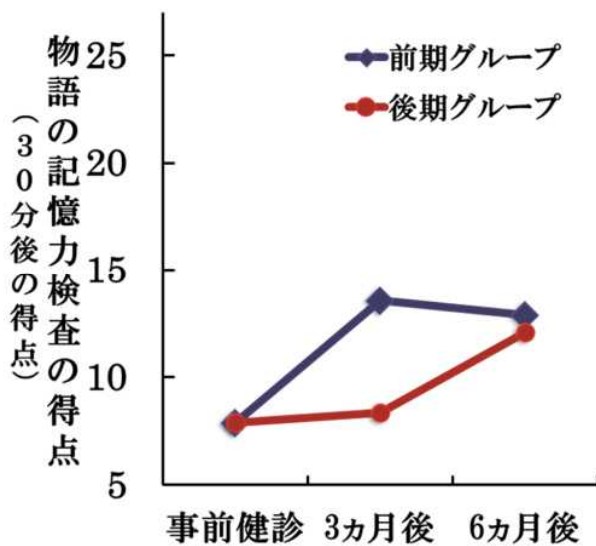
手先の器用さの測定(ペグテスト)



認知機能の測定

「絵本の読み聞かせ講座」の記憶機能への効果

参考) 都内パイロット地区



結果:

- ① 講座の受講に関わらず研究に参加することで得点が向上。
- ② 事前健診時点での得点が高いが、更に向上。
- ③ 高い継続率(92%)。

B. 既存の読み聞かせボランティアと活動施設に関する調査

【対象】読み聞かせボランティア「りぷりんと」(2004年～)の各エリア(東京都中央区、杉並区、川崎市、滋賀県長浜市)のボランティア(回答数106)。

【内容】活動における課題や、活動施設に関する意見などアンケート・インタビュー調査。

結果:

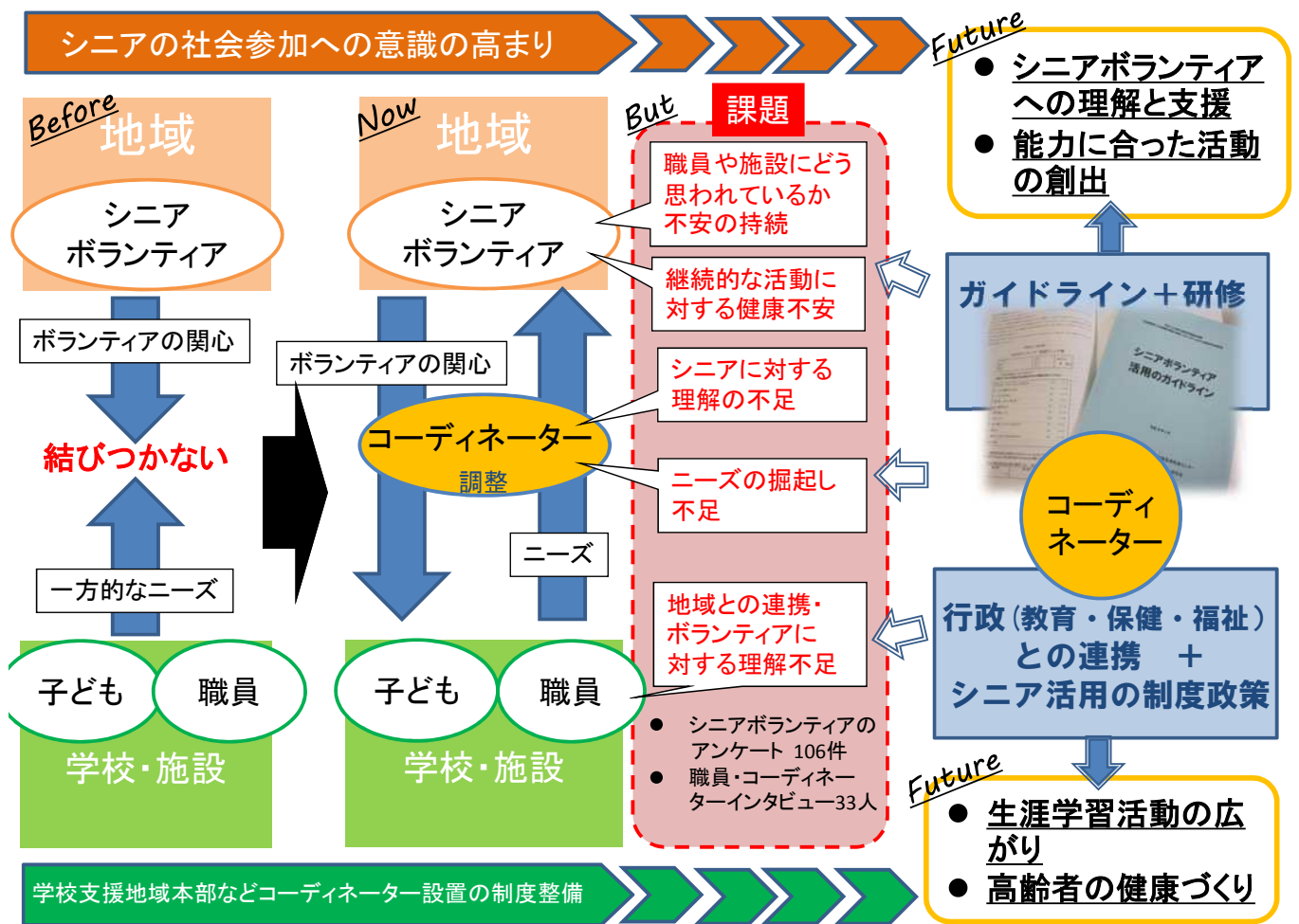
- ① 活動開始時においてシニアボランティアが様々な不安を抱いていた。特に、自身の能力や活動の意義や価値などに関して不安。
- ② 活動を継続する中で、子どもとの交流が増えることによって子どもの反応への不安は解消された。
- ③ 健康障害や活動施設の反応への不安は持続している。

【対象】図書館、児童館、保育園、小学校など「りぷりんと」の活動施設を中心にした職員と、学校や福祉施設のコーディネーター33人。

【内容】インタビュー調査

結果:

- ① 高齢者の特性に関する理解・意識が不十分
- ② 教育施設では、ボランティアを「お年より」扱いない意識、元気なシニアボランティアが多いことも起因。



参考:『社会教育が地域を元気にする~平成23年度「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」のための実証的共同研究採択事業報告~』,2012年6月1日, pp14-15, 月刊生涯学習

まとめ

- 生涯学習と保健福祉を融合した絵本の読み聞かせボランティア養成プログラムを通して地域高齢者における学校や教育支援への参加・継続を促進する地域モデルの構築を試みた。
- 高齢者ボランティアが地域で主体的かつ継続的に活動する要件を探った。
 - 1)自身の健康不安の解消:
健康増進的要素、健診、能力にあったプログラム
 - 2)地元コーディネーターの存在により、自主グループ化や活動施設の紹介・導入がスムーズであった。
 - 3)活動施設職員の高齢者に対する理解促進と受入れ方法の確立にむけて「シニアボランティア活用のガイドライン」を作成した。

